

8. 徳光大島遺跡

所在地：福井市徳光町地係

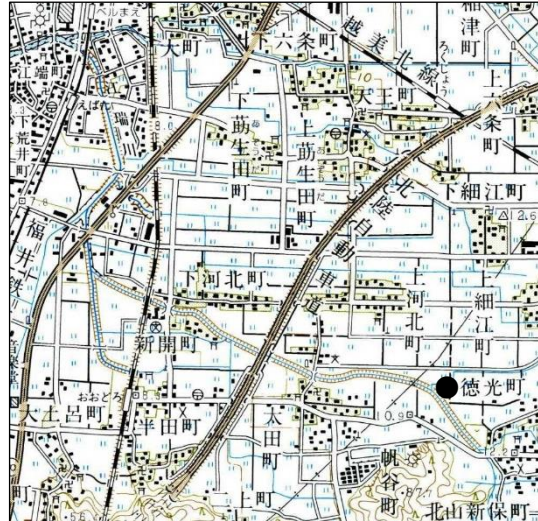
調査原因：一般県道徳光福井線道路改良工事

調査期間：平成30年6月1日～10月31日

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：1,460㎡

時代：弥生時代後期末、中世



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 遺跡は福井平野の南部に位置し、江端川右岸の自然堤防上に立地しています。調査区の旧地形は、微高地と南端の旧河道からなり、南北へ向け緩く傾斜します。土層は、調査区の南半に現代の客土である灰色粘質土や暗青灰色粘質土、次に調査区のほぼ全体に耕作土である黄灰色粘質土が堆積していました。微高地では、遺物包含層の暗黄灰色粘質土、地山である黄褐色粘質土、旧河道は埋土の暗青灰色粘質土が厚く堆積していました。

遺構 掘立柱建物 (SB) 2棟、溝 (SD) 約10条、井戸 (SE) 2基、土坑 (SK) 約10基、ピット (SP) 多数の他、旧河道 (SR) 1条を検出しました。掘立柱建物やピット、井戸は調査区中央の微高地、溝は調査区南端の旧河道北側でまとまります。SB1は3間×3間以上の総柱建物で、調査区外の東側へひろがります。SD6は調査区南側を南東から北西方向へのび、弥生時代後期末の土器が一括して廃棄された状況で多量に出土しました。在地系の土器群が主体ですが、SD6の東端部では東海系のS字状口縁台付甕やくの字状口縁の甕がまとまって共伴しました。また、SD6の中央西寄りでは管玉製品3点と東端部で翡翠製の勾玉1点が出土しました。SE1・2は共に素掘りで、SE1では底面でほぼ完形の甕が1個体分出土しました。SE2は埋土上層から多量の土器、底部付近から籠状の木製品が出土しています。

遺物 天箱25箱分が出土しました。弥生時代後期末の土器が大半ですが、玉作関係遺物や木製品も少量出土しています。他に中世の土器・陶磁器も僅かに出土しました。遺物は包含層から3割、遺構から7割が出土し、特にSD6とSE1・2等からまとまって出土しています。

まとめ 遺跡の時期は中世もありますが、弥生時代後期末が中心です。調査区は旧江端川に面した自然堤防上に営まれた集落の端部にあたり、中央が居住域、南側が集落の縁辺部であると考えられます。また、SD6から在地系の土器群と共に東海系の土器や翡翠製の勾玉が出土しており、地域間の交流等を推察できる良好な事例が得られたと考えられます。

(田中勝之)

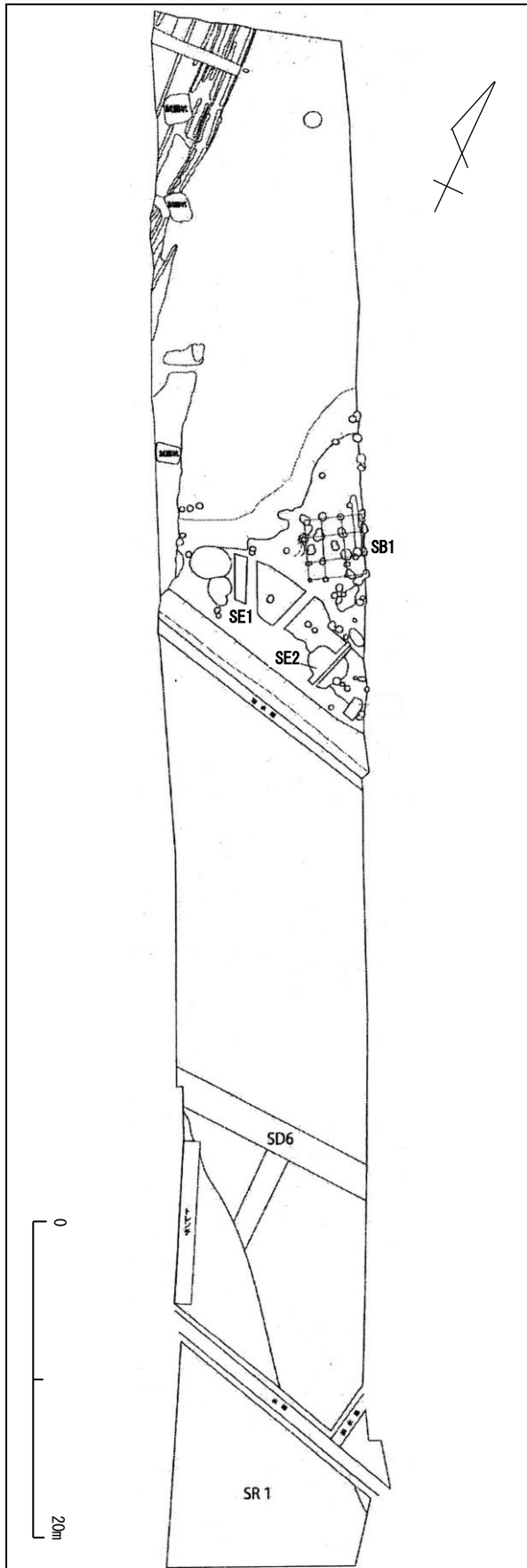


図1 調査区平面略図（縮尺約 1/400）



写真1 調査区全景（南東より）



写真2 SD6遺物出土状況（西より）